

## 今年度も残り3カ月となりました

10月5日の後期始業式からあっという間に月日が過ぎ、今年度も残り3カ月となりました。

この期間には、小学部・中学部のARA・SHI(学習)発表会、重複学級のARA・SHIランド、高等部では現場実習と、子どもたちのがんばる姿をたくさんの方々に認めていただきたいという思いで計画した活動が目白押しでしたから、どうかコロナの影響を受けませんようにと祈る思いでした。振り返ってみれば、その時期には感染拡大が一時的に収まってリスクレベルが下がり、秋の諸行事を計画どおりに実施できて本当に幸いでした。コロナ禍に入って、お家の方々に人数制限なしで授業や行事を見ていただく機会がほとんどなくなってしまい、おじいちゃんやおばあちゃん、他の家族の方々も学校での様子を見てみたいと楽しみにされていると伺っています。とても申し訳なく思いながら、いつ来ていただいても子どもたちが元気いっぱい存分に学習に取り組む姿を見ていただけるよう、これからもしっかりと学校生活をつくってまいります。

10月末には中学部重複学級の鹿児島修学旅行、11月には小学部重複学級の福岡修学旅行、小学部5年生の校内宿泊学習、12月には高等部一般学級の大阪修学旅行を実施しました。こちらも感染拡大を常に気にしながら準備を進めていきましたが、同時にご家庭でも子どもたちの健康管理を万全に行っていただきました。小学部では宿泊前にお家で少しでも体調に変化が見られたらすぐに通院されて、無事を確認した後に登校いただいたご家庭も多く、保護者の方々はこんなにも細やかに子どもたちの健康を守っておられ、そして学校の取組に協力いただいているのだと改めて感じました。また高等部でも親元を遠く離れての2泊3日、とても心配いただいたことが送迎時の保護者さんの様子からひしひしと伝わってきました。いずれの修学旅行も宿泊学習も、子どもたちにとっては大冒険です。期待と不安の中に友達や先生たちと手を取り合って、初めて行く場所、初めて見る物、初めてすることに、心を躍らせ震わせて実感し、理解して記憶にとどめる。とても貴重な経験です。生徒たちと共に大阪から新幹線で新玉名駅に戻り、ホッと安堵された保護者の方々の表情を見ながら解散式で「保護者の皆様にはたいへんご心配をかけたことと思います。でもその心配した分だけ、生徒たちはたくましくなって帰ってきました。」と述べました。生徒たちと共に大冒険を終えた私の率直な思いでした。

保護者の皆様の愛情によって大切に守られた子どもたち。行事が続いたこの時期、特に実感する機会が多くありました。私たちもその愛情に応えられるよう、引き続き全

力で、温かく丁寧に子どもたちを支えてまいります。今後とも、保護者の皆様、地域の皆様、関係諸機関の皆様のご理解とお力添えをお願いいたします。

令和4年12月

熊本県立荒尾支援学校校長 松本 英雄